

レトロ・レトロの展覧会 2017

平成28年度 滋賀県発掘調査成果展



平成29年7月22日(土)～8月27日(日)

平成28年度調査事業一覧

【発掘調査】

No.	遺跡名	所在地	内容	面積(㎡)	主な遺構・遺物
国土交通省事業					
1	松原内湖遺跡	彦根市	発掘	1,190	縄文時代晩期～奈良時代の谷。中世の集落跡。
2	斎ノ神・三上遺跡	野洲市	発掘	7,510	弥生時代の集落跡、古墳時代の竪穴建物。
NEXCO西日本事業					
3	椿谷遺跡		測量	11,600	史料にもみられる大正期に操業していた採石場。
県土木交通部道路課事業					
4	生津城遺跡	大津市	発掘	1,500	城郭に本格導入前の石垣を伴う櫓台や礎石建物。
県土木交通部流域政策局事業					
5	蜂屋遺跡	栗東市	発掘	700	古墳時代・中世・近世の流路と16世紀頃の集落跡。
県農政水産部事業					
6	賀田山遺跡	彦根市	発掘	2,810	中世の集落跡。
7	金森西遺跡	守山市	発掘	1,011	古墳時代の川跡、古道。
県警察本部事業					
8	八幡城下町遺跡	近江八幡市	発掘	149	近世の井戸や瓦溜り、石組の枡形遺構。
県土地開発公社事業					
9	隠小谷遺跡	大津市	発掘	1,000	時期不明の溝状遺構や土坑。
市町事業					
10	榊差・黒土遺跡	草津市	発掘	8,651	奈良時代の道路遺構、長舎、井戸など。
11	長浜城遺跡	長浜市	発掘	345	弥生時代中期～鎌倉時代の集落跡。
12	ブタイ遺跡	竜王町	発掘	2,240	鏡山須恵器生産に関わる、奈良時代の公的施設。

【整理調査】

No.	遺跡名	所在地	内容	発掘年度(平成)	主な遺構・遺物
国土交通省事業					
1	塩津港遺跡	長浜市	整理	24・26・27	奈良時代～中世にかけての港跡。
2	松原内湖遺跡	彦根市	整理	27	奈良時代・中世の集落跡。
県土木交通部道路課事業					
3	安養寺遺跡	近江八幡市	整理	25・26	古代～中世の集落跡。大量の瓦や大型礎石が出土。
4	土位遺跡	東近江市	整理	27	古代から中世の建物跡。近世の愛知川旧堤防。
5	蛭子田遺跡	東近江市	整理	26	大量の土器を含む平安時代の溝など。
県土木交通部流域政策局事業					
6	金森西遺跡	守山市	整理	27	中世の掘立柱建物。
7	野尻遺跡	栗東市	整理	27	古墳時代の流路と治水遺構。
8	天神畑・上御殿遺跡	高島市	整理	24～26	古墳時代から平安時代の旧河道。木製祭祀具。
9	塩津港遺跡	長浜市	整理	18～20・25	平安時代後期の神社跡。
県農政水産部事業					
10	金森西遺跡	守山市	整理	27	古墳時代の竪穴建物。
11	賀田山遺跡	彦根市	整理	27	中世の集落跡。
県土地開発公社事業					
12	堤ヶ谷遺跡	竜王町	整理	22～26	弥生時代の磨製石器製作工房。中世～近代の墓。
市町事業					
13	長浜城遺跡	長浜市	整理	26・27	近世石垣など。
14	貴生川遺跡	甲賀市	整理	25・26	古墳時代・中世の集落跡。室町時代の城館など。

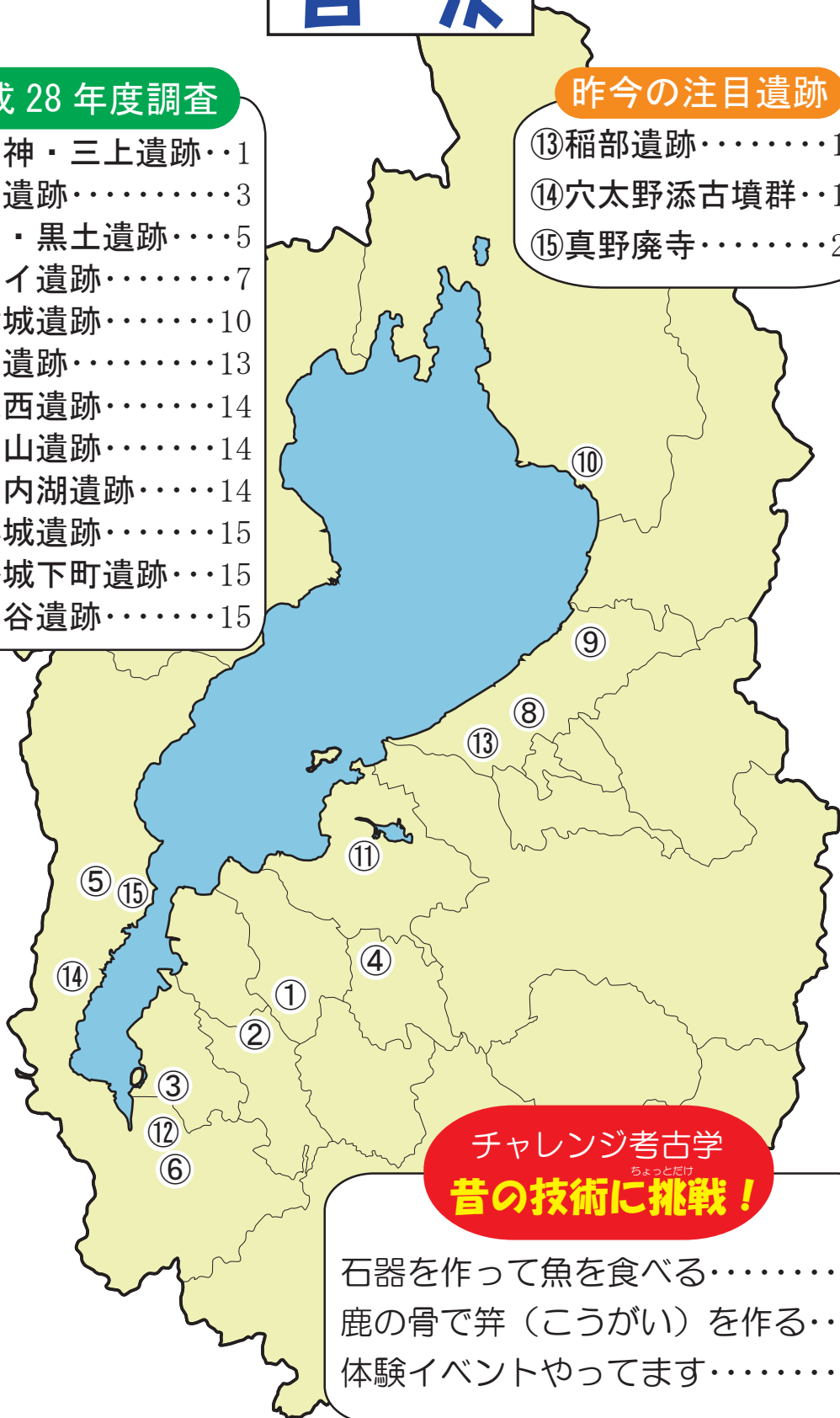
目次

平成 28 年度調査

- ① 斎ノ神・三上遺跡・・・1
- ② 蜂屋遺跡・・・・・・・・・・3
- ③ 榊差・黒土遺跡・・・5
- ④ ブタイ遺跡・・・・・・・・・・7
- ⑤ 生津城遺跡・・・・・・・・・・10
- ⑥ 椿谷遺跡・・・・・・・・・・13
- ⑦ 金森西遺跡・・・・・・・・・・14
- ⑧ 賀田山遺跡・・・・・・・・・・14
- ⑨ 松原内湖遺跡・・・14
- ⑩ 長浜城遺跡・・・・・・・・・・15
- ⑪ 八幡城下町遺跡・・・15
- ⑫ 隠小谷遺跡・・・・・・・・・・15

昨今の注目遺跡

- ⑬ 稲部遺跡・・・・・・・・・・16
- ⑭ 穴太野添古墳群・・・18
- ⑮ 真野廃寺・・・・・・・・・・20



チャレンジ考古学 ちよっとだけ 昔の技術に挑戦!

- 石器を作って魚を食べる・・・・・・・・・・22
- 鹿の骨で筭（こうがい）を作る・・・23
- 体験イベントやっています・・・・・・・・・・24

さい の かみ み かみ
齋ノ神遺跡 ・ **三上遺跡**

野洲市妙光寺・三上



国道8号野洲栗東バイパス工事に伴い平成27年度には中畑・古里遺跡と齋ノ神を、平成28年度には引き続き、齋ノ神遺跡と三上遺跡を発掘調査しました。

齋ノ神遺跡では、弥生時代後期の方形周溝墓5基、平安時代中期から後期の掘立柱建物や井戸・溝などが見つかりました。最も大きい方形周溝墓は、一辺が14m程の大きさです。周溝の底からは^{てあぶり}手焙形土器が出土しました。他の4基は、ここから40～50mほど離れた位置でまとまって見つかりました。いずれも一辺10m弱とやや小振りの規模です。どの方形周溝墓も、^{ほうけいしゅうこうぼ}埋葬主体部は後生に削平されたためか残っていませんでした。



埋設土器と掘り方断面

三上遺跡では、弥生時代中期頃の埋設土器・土坑など、古墳時代前期頃の竪穴建物1基・土坑などが見つかりました。このうちの埋設土器は、地面に穴を掘り、そのなかに土器（甕）を納め、さらに別の土器の下半分で口をふさいで蓋としていました。甕の中には何かを入れていたかもしれないと考え、甕の中にたまっていた土をすべて持ち帰り、慎重に洗浄しました。しかし、残念ながら小礫以外にとくに何も発見できませんでした。このような土器を地中に意図的に埋設した施設は、子供を埋葬した棺などであったと

考えられます。古墳時代前期頃の竪穴建物は一辺5m程度の方形に地面を掘りくぼめ、その上に屋根をかけた建物です。この建物では、床面にムシロ状の有機質の痕跡が残っており、その上面の各所で土師器がまとまって出土しました。おそらく、建物の床面にムシロのような敷物を敷き広げ、そのうえで生活をしていたと考えられます。建物は1棟しか確認できませんでしたが、調査区の西側に集落がひろがっていた可能性があります。



古墳時代前期の竪穴建物



土器の裏に張り付いた編物痕



悪天候でも発掘しなきゃいけないときがある
急遽テントを建てて調査中



竪穴建物床面の土器

はち や 蜂 屋 遺 跡

栗東市蜂屋



平安時代末～鎌倉時代、室町時代～安土桃山時代の村の跡
奥の橙色っぽい土が古墳時代～江戸時代の旧中ノ井川が埋
まった土

蜂屋遺跡は、栗東市中心部の平野部にある遺跡です。中ノ井川広域河川改修工事に伴い発掘調査を実施しました。

古墳時代前期・中期の川に埋まった土からは、土師器の甕などがたくさん見つかりました。平安時代末～鎌倉時代初頭の遺構には、溝や柱穴などがあります。溝は断面形が逆台形状で、^{しょうり}条里方向に約 14 m分が見つかりました。屋敷地を区画する溝と考えられ、なかから土師器皿や黒^{はしき}色土器碗^{こく}を中心とする土器類がたくさん見つかりました。室町時代後期～安土桃山時代の遺構・遺物は最も多く見つかりました。たくさんの建物の柱穴のほか、直径 2.3 m・深さ 2.7



12 世紀後半の溝から多量の土器が出土

mの石組井戸も見つかっています。このほか、平面形が隅丸方形を呈する穴（土坑）や川もあります。江戸時代中期（18世紀）の遺構には溝や穴（土坑）のほか、直径1.8m・深さ2.2mの石組井戸があります。

これら4つの時期それぞれに集落があったと考えられます。また、古墳時代前期・中期や室町時代後期～安土桃山時代の川の跡は、中ノ井川の旧流路と考えられます。そして、瓦を中心とした奈良時代の遺物も見つかっていることから、調査地北東側にあったとされる「蜂屋廃寺」との関連が考えられます。



古墳時代の中ノ井川



室町時代～安土桃山時代の中ノ井川



室町時代～安土桃山時代の石組井戸



江戸時代の中ノ井川



昔の中ノ井川からは多量の土器が出土した

さかき ざし 黒土遺跡 ・ くろ つち 黒土遺跡

草津市南笠町・野路町



奈良時代の長舎と道路状遺構（人が立っている部分が長舎、手前の溝が東山道の側溝か）

南草津プリムタウン土地区画整理事業に伴い、平成 27 年度から発掘調査を実施しています。調査地は、瀬田丘陵からつながる段丘とそれを取り巻く扇状地上にあります。調査対象地内には、柘差遺跡・黒土遺跡・柘差古墳群の3つの遺跡が分布しています。

昨年度の調査では、史跡近江国庁跡おうみこくちやうあとの東脇殿ひがしわきでんの基壇きだん（基壇：建物を建てるための土壇）とほぼ同じ規模をもつ、奈良時代の大型で細長い「長舎」とい



奈良時代の長舎

われる掘立柱建物跡がみつき、調査地周辺に国庁や郡庁などに類する古代の役所的な施設があったことがわかりました。また、長舎建物跡の東側に近接して、東山道とうさんどう（東山道：古代の官道のひとつ）の可能性のある道路状遺構もみついています。

【長舎】（奈良時代）

南笠集落から延びる段丘の末端部で、北側を谷状地形に接している場所に建てられていました。2間×15間(6m×45m)・床面積270㎡の大きさです。一辺が0.8～1.1mの、平面形が長方形や正方形の掘り方の中からは、直径20cmほどの柱痕がみつかっています。推定される柱と柱の間の距離は、10尺(3m)です。

【道路状遺構】（奈良時代）

幅12mの直線的に造られた道路です。現在も残る道路の両側から、幅1.2m・深さ0.9mの側溝がみつかっています。平安時代中期頃の^{もっかんぼ}木棺墓が、西側の路面にあたる部分からみつかっていることから考えると、平安時代中期頃には道幅が狭くなっていたようです。

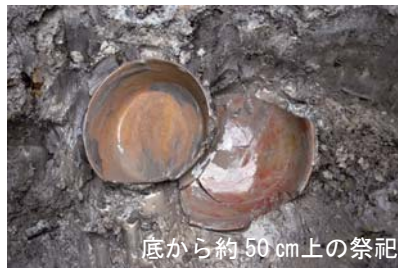
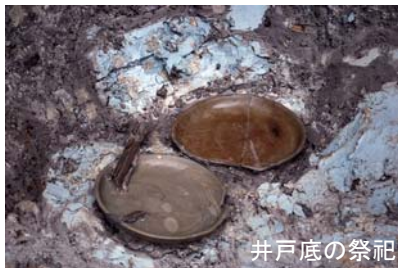


【井戸】（奈良時代）

調査地の低いところから、直径2.0m・深さ2.6mの円形の掘り方をもつ奈良時代の井戸がみつかりました。

井戸枠はみつかりませんでした。井戸を放棄するときに抜き取ったのかもしれませんが。井戸の底には、ほぼ完形の土師器や須恵器の^{まげもの}坏・皿などが2個体並べて置かれている様子が確認できました。そのほかにも、

^{ほくしょどき}小型の須恵器壺・^{まげもの}墨書土器（須恵器坏蓋：「奥」？）・^{いくし}曲物の底板などが、^{いぐし}斎串と一緒に出土しています。これらの遺物は、井戸を埋め戻すときに行われた祭祀に使われたものと考えられます。



○井戸を埋め戻すときの祭祀跡

井戸を埋め戻すとき、土師器や須恵器の坏・皿を納める祭祀が、少なくとも3回は行われたようです。底付近で1回、底から約50cm上で1回、底から約65cm上で1回行われたことを確認できました。

ブタイ遺跡

蒲生郡竜王町山面



やまづら

ブタイ遺跡は蒲生郡竜王町山面にある遺跡です。平成 14 年度に行われた土地開発に伴う発掘調査では、奈良時代の大きな柱穴からなる掘立柱建物群と、それら建物群を囲む溝などが見つかりました。

今回の調査は、平成 14 年度の調査地に近接する地点で行いました。調査の結果、平成 14 年度調査地付近では奈良時代頃の掘立柱建物がみつかるとともに、幅約 5m・深さ 1.7m の大きな人工水路（大溝）が見つかり、多量の須恵器や土師器、木器などが出土しました。



奈良時代の掘立柱建物

大溝から出土した須恵器には、焼きが弱いものや焼け歪んだものが多く含まれます。土器の他には長さ 2m ～ 3m ほどの板材や木製の皿、槽そうなども多く出土しました。これらも須恵器生産とともに、鏡山の山林資源を利用して作られたものと考えられます。また、鉸具かこ・巡方じゅんぼうなどの帯金具も出土しました。これらは当時の役人などが身に着けていたものなので、みつかった遺構は役所跡の可能性が高いことが分かりました。



多量の土器や木器が出土した大溝



大溝の深さは人の背丈ほどある

一方、大溝からは「桐原郷蕙原史（きりはらごういはらのふひと）※」と書かれた木簡が出土しています。下端が尖った木札に文字が書かれており、何らかの荷物に突き刺して使用したものだと思われます。おそらく、須恵器生産を支える人物からの補給物資に付けられていたものであり、管理施設に荷物が到着した後に廃棄されたのでしょう。



板材出土状況



木製皿出土状況

ブタイ遺跡の西方にある鏡山は、鏡山古窯趾群として県下最大の須恵器の生産遺跡として周知されています。ブタイ遺跡は鏡山の麓に立地しており、過去の調査結果などから、鏡山古窯趾群と深く関係する遺跡として注目されていました。

複数の掘立柱建物とそれらを囲む溝、多量の土器や木器が出土した大溝、役所跡などで発見例が多い帯金具や木簡など、みつかった遺構は、鏡山の須恵器生産を管理するための役所跡と考えられます。大溝は、幅が広いことや深く掘られていることから船の航行を目的とした運河と考えられ、操業中の須恵器窯と、遺跡北方の東山道と接続していた可能性もあります。窯から搬出された製品を、集積するための施設（ブタイ遺跡）に一度運び込み、選別した後に船を用いて出荷していたと考えられます。大溝から多量に出土した土器や木器は、選別場で捨てられたものと思われます。



木簡



木簡赤外線写真

桐原郷 蕙原史

※「蕙原」という名前は、正倉院に納められた文書にみられます。蕙原史宿奈麻呂という人が近江国野洲郡敷智郷にいたことが分かっています。



不良品の須恵器



ブタイ遺跡想像復元図

な ま づ じょう

生津城遺跡

大津市伊香立生津町



手前が礎石建物、奥が石垣を伴う櫓台



上空からみた生津城遺跡

伊香立浜大津線補助道路整備工事に伴い発掘調査を実施しました。生津城遺跡は「城山」と呼ばれる段丘の先端部に立地し、3方向を谷に囲まれた自然地形を巧みに利用するかたちで選地・築城しています。現況で堀切や土塁などの遺構が確認できました。遺跡の東方向には堅田から京都大原へと続く「途中越え」があり、北西方向には山間部を通して大原に至る「伊香立越え」が通じる、交通の要衝に位置しています。江戸時代に書かれた地誌の『近江輿地志略』には、城主として「林宗林坊」

と記載されていますが、これまで詳細については明らかになっていませんでした。



石垣を伴う櫓台（南から）

【石垣を伴う櫓台】

生津城の最高所となる曲輪くるわが北隅で検出されました。2辺を土塁によって囲まれた内側に小規模な平坦面があることから櫓の土台と想定されます。北方を通る旧道「伊香立越え」を監視していたと推測されます。南側の2辺には石垣を築いています。前面の石材つきいし（築石）は30～50cm前後の石材の長辺を奥にして積み上げ、隙間や裏込めには10～20cmの小ぶりな石材を詰め込んでいます。築石の背面下部に厚さ1～2cmほどの扁平な石材かいいし（飼石）を挟み、前面の勾配を60°あるいは70°に揃うように調整しています。

【礎石建物】

曲輪を囲う土塁沿いに礎石が残り、一部に礎石を据えた痕跡が認められることから3間×4間（約2.8m×4m）の規模に復元されます。側柱の礎石間には10cm前後の石材を帯状に敷き並べています。内部にも礎石



礎石建物（南から）

を据える重さに強い建物構造であることから、蔵などの役割が想定されます。また、礎石建物の周囲には排水および区画用と考えられる方形の溝が巡ります。

【堀 切】

曲輪の南西部と北東部に現況で堀切の痕跡が残っていました。この2か所は当初はつながっていたとみられ、尾根筋が分断されていたと考えられます。堀切の南西部では、幅約9.5 m、深さ約5 mを測り、大規模な堀切であったことが明らかになりました。

今回の調査によって生津城は、「伊香立越え」の道を監視したと考えられる櫓台や蔵と考えられる礎石建物、尾根筋を分断した大規模な堀切や曲輪を囲む土塁といった本格的な城郭施設を備えていたことが明らかになりました。特に、櫓台に用いられた石垣の構築技法は、石垣が本格的に城郭に導入されていく過渡期のもので、近江の築城技術の高さを示すものといえます。

中世の伊香立は比叡山延暦寺の「伊香立庄」^{いかだちのしょう}に属し、城主とされる「林宗林坊」は法名を冠することから寺社勢力と関係进行結び、堅田から途中越え・伊香立越えを経て京都へ至る間道を押さえた在地の土豪としての姿が見えてきます。

これまで実態がよくわかっていなかった、伊香立地域の中世城郭の一端が明らかとなったとともに、在地の土豪クラスの城郭においても高い築城技術をもっていたことが分かる重要な発見でした。



調査前の堀切（北西から）



調査後の堀切（北西から）



堀切東側の土塁の断面

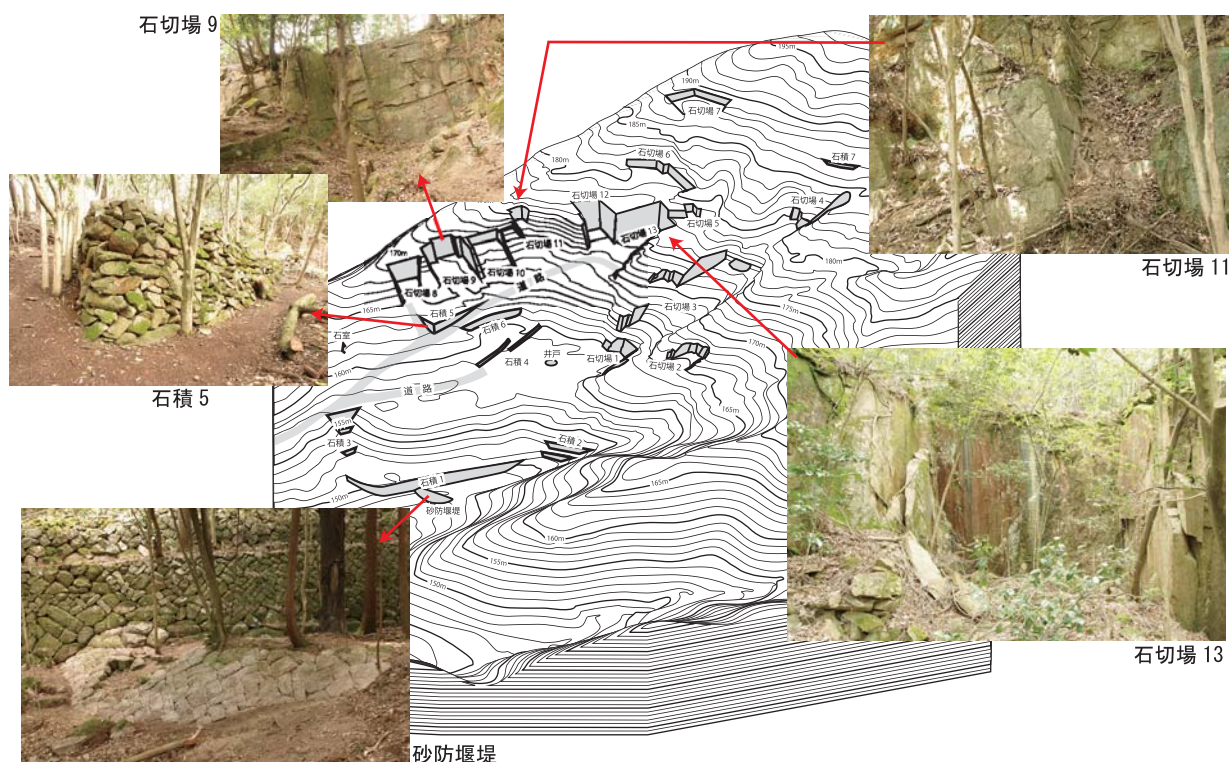
つばき だに

椿 谷 遺 跡

大津市枝町



椿谷遺跡は、大津市の田上山地内に位置します。田上山地は全体が花崗岩かこうがんでできた山で、かつては檜や杉が茂る豊かな山林でした。しかし、大規模な伐採により、江戸時代の終わり頃には山肌が露出するはげやまとなっていました。



明治時代になると、山林の荒廃で下流の洪水がひどくなることを防ぐため、はげやまに木を植える「治山事業」ちざん じぎょうを国営でおこない、山林の回復を行いました。

椿山遺跡は、このような田上山中の花崗岩が露出したところに設けられた採石場で、13箇所の石切場と7箇所の石積、そして土砂の流出を防ぐ砂防堰堤などが残っていました。石切場には削岩機さくがんきのような機械を使用した痕跡がありました。そこで、滋賀県県政史料室で椿谷遺跡のある場所の土地利用状況を調べたところ、大正4年から9年にかけて採石場として使用する申請記録が見つかりました。おそらく大正時代に操業した採石場と考えられます。

金 森 西 遺 跡

守山市三宅町

県営農村基盤整備事業野洲川下流地区道路工事に伴い、平成 27 年度に引き続き発掘調査を実施しました。調査地は中山道と湖岸を結ぶ通称「馬道」と呼ばれる古道に重なっており、平安時代から現代にわたって道路側溝は繰り返し掘り直され、道が維持され続けたことが明らかになりました。また、古墳時代前期の河川跡が見つかり、多量の土器が出土しました。



調査区全景

賀 田 山 遺 跡

彦根市賀田山町

彦根市南方域の排水路工事（「犬上南部地区排水路第4工事」）に伴い、発掘調査を行いました。今回の調査では、平安時代～鎌倉時代の、区画溝や建物がみつかりました。

調査地は宇曾川の右岸域にあたり、賀田山周辺に広がる水田景観は、約 1000 年前に行なわれた「条里制」とよばれる大規模な耕地整理の痕跡を留めています。調査でみつかった建物や溝、耕作痕は、現在の水田と同じ方位であり、この頃には調査地周辺に条里制が及んでいたことがわかりました。



今の田んぼと同じ向きの掘立柱建物と区画溝。田んぼの向きは中世から変わっていないのが分かる

松 原 内 湖 遺 跡

彦根市松原町

松原内湖遺跡は、彦根市北部の旧松原内湖と佐和山丘陵が接するところにある遺跡です。国道 8 号米原バイパス事業に伴い発掘調査を実施しました。

発掘調査では、松原内湖に面する谷から、鎌倉時代から室町時代にかけての建物跡や屋敷地を区画する溝などがたくさん見つかりました。

この中世の集落は、谷を埋めてつくられていましたが、谷に埋まった土や整地した土の中には、縄文時代から平安時代にかけての遺物が含まれていました。とくに縄文時代晩期と奈良時代の遺物が多く、これらの時期にも集落があったことがわかりました。



中世の集落ができる前の谷地形

なが はま じょう 長浜城遺跡

長浜市北船町

長浜城遺跡は、豊臣秀吉の築城で知られる琵琶湖岸の長浜城跡を中心とする遺跡です。JR 長浜駅東側の大型商業施設建設に伴い発掘調査を実施しました。

長浜城に関わる発見はありませんでしたが、弥生時代中期前半の遺構・遺物が出土し、古墳時代後期の竪穴住居、奈良時代後半～平安時代初頭の溝、平安時代末～鎌倉時代初頭の柱穴と溝などがみつかりました。

また、江戸時代の礎石建物もみつかりました。ここにはもともと、慶長 11 年 (1606) に長浜城主となった内藤信正が勧進した金刀比羅神社があり、その前身社殿と考えられます。



多数の柱跡



江戸時代の礎石建物

はちまんじょう かまち 八幡城下町遺跡

近江八幡市鍛冶屋町

八幡城下町遺跡は、1585 (天正 13) 年、豊臣秀次が八幡山城を築いて以降、その城下町として営まれてきた遺跡です。これまでに行われた発掘調査の成果からは、弥生～古墳時代・中世～近世・近代の遺構が確認されています。今回の調査では、近世～近代以降の、井戸跡や瓦溜り、石組みの枡形遺構などがみつかりました。



かくれ こ だに 隠小谷遺跡

大津市上田上中野町

隠小谷遺跡では、かつて須恵器片が採取されていますが、遺跡の実態は不明です。今回の調査では、溝状遺構や土坑などを確認しました。周辺には、奈良時代の梵鐘鑄造遺構や製鉄炉、須恵器窯などが多数見つかった木瓜原遺跡や、白鳳期の製鉄炉が見つかった源内峠遺跡があり、隠小谷遺跡も古代の生産に関わる遺跡だった可能性が指摘されています。



いな べ
稲部遺跡

彦根市稲部町・彦富町



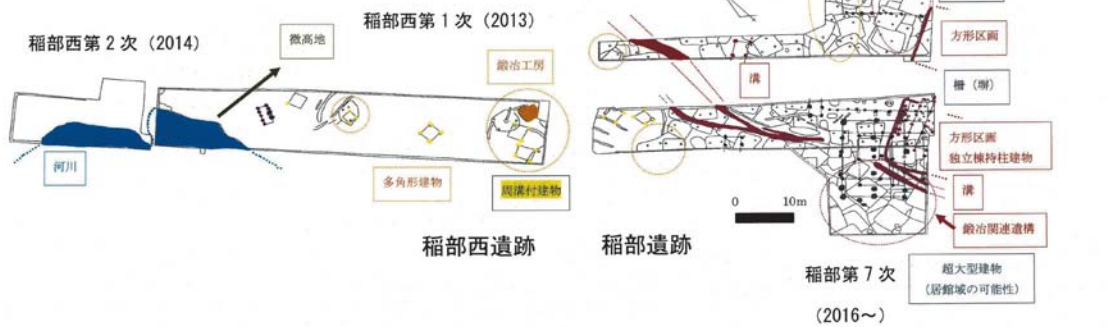
稲部遺跡 第7次調査全景写真

稲部遺跡は、昭和56年の宅地造成工事に伴う調査以来、これまでに13次にわたる調査が実施されています。弥生時代後期後半から古墳時代中期（2世紀後半～5世紀）まで存続した集落跡ですが、最盛期は弥生時代終末～古墳時代前期前半（3世紀頃）です。これまでに、たてあな縦穴建物180棟以上、ほったてばしら掘立柱建物30棟以上、しゅうこう周溝付建物9棟以上、溝、井戸、多数の土坑、自然流路などがみつかっています。集落の範囲は、径約500mと推定される大規模な集落です。

第7次調査では弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての縦穴建物30棟以上、区画溝2条、方形区画施設の一部である区画溝と柵列が検出されました。30棟以上縦穴建物の内、23棟から鉄片や粘土塊が多く出土しています。これらの縦穴建物の床面では微細な焼土がみられます。鍛冶作業によって床面に飛散した焼土である可能性があり、居住用の建物だけでなく、鉄器の生産に関わる建物が含まれると考えられます。

方形区画施設とは、溝によって特別な空間を作るための区画で、一辺13～14m以上の二つの方形区画施設が南北方向に並列しています。時期は弥生時代終末から古墳時代初

- 主要遺構の変遷（1～6期）**
- 1期 弥生時代後期中葉から後葉（庄内式期初頭を含む） 竪穴建物による集落が形成。鍛冶工房1棟。多角形建物の居住域。
 - 2期 弥生時代終末（庄内式期前半） 北端部に独立棟持柱建物、井戸、金属器工房からなる空間が形成。周溝付建物の居住域。
 - 3期 弥生時代終末（庄内式期後半） 3世紀前葉から中葉 竪穴建物約60棟。方形区画の南側で鉄器生産が開始。北端部の特殊な空間利用は継続。
 - 4期 弥生時代終末から古墳時代初頭（庄内式期末から布留式期初頭） 方形区画施設と独立棟持柱建物が出現し、その南側に鍛冶関連遺構が集中。北端部の祭祀空間とは別に大型建物と方形区画施設が出現。集落内の機能分化・階層分化が顕著になり、首長層の台頭。
 - 5期 古墳時代前期前半（布留式期前半） 方形区画施設を切って超大型建物（居館や倉庫の可能性）が柵（塙）による区画を伴って出現。ヤマト政権との関係強化による大きな政治的変化を示す可能性。首長権力の増大と安定。
 - 6期 古墳時代前期後半から古墳時代中期（布留式期後半以降） 超大型建物が出現し、王権の物流拠点として機能していた可能性。大溝の掘削と初期須恵器の出土。



稲部遺跡 主要遺構配置図（現地説明会市資料より）

頭と考えられます。

南側の方形区画では、溝の底に木質が残っていたので、板塙のような構造物で遮蔽されいた可能性があり、溝の内側には溝と平行して柵の痕跡が、みつかりました。南側の方形区画施設の近くでは大型の独立棟持柱建物1棟（10.5m × 4.1m・床面積 43.0㎡）がありました。

古墳時代前期には方形区画施設だったところに超大型建物（16.2m × 11.6m・床面積 188.0㎡）が建てられます。同時期のものでは日本列島屈指の規模です。

稲部遺跡でみつかった遺構は、3世紀前半の湖東地域の拠点的な集落跡と考えられ、当時の首長権力に関わる階層の居住空間や被支配層の組織的な生産活動を考える上で重要な遺跡と考えられます。



穴太野添古墳群

大津市坂本一丁目



穴太野添古墳群 調査地全景



3号墳全景

穴太野添古墳群は、大津市穴太一丁目、坂本一丁目に広がる古墳時代後期の古墳群です。本古墳群が位置する比叡山東麓（坂本から錦織にかけての地域）には、同時期の古墳群が多くみられ、その数は1000基を超えるともいわれています。本古墳群もそのうちのひとつで、現在150基程度が確認されています。

今回の調査は、グラウンドの造成に伴うものです。発掘調査の結果横穴式石室7基がみつき、棺の釘や副葬された土器類が良好に残っていました。



2号墳全景



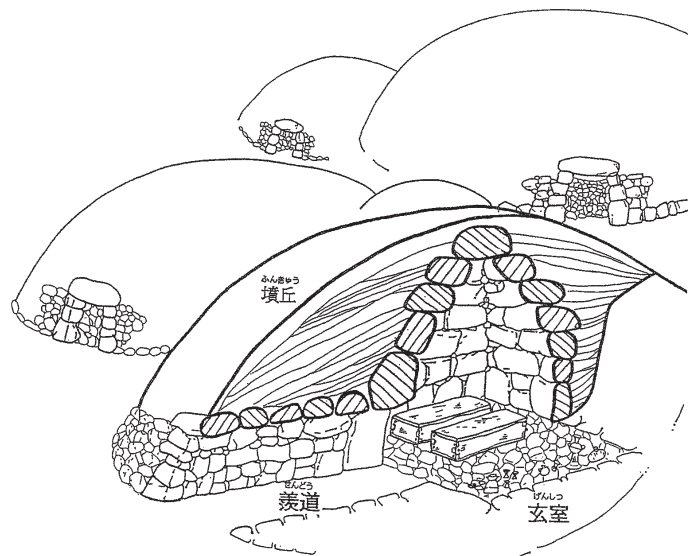
4号墳全景



5号墳全景



6号墳全景



比叡山東麓の横穴式石室模式図

これまで本古墳群でみつかった石室は、玄室（棺を納める部屋）の天井がドーム型に石積みされる特徴的なもので、出土遺物などから、中国・朝鮮半島からの渡来人の影響が指摘されてきました。今回の調査では石室の基底部付近の石が残っていた程度でしたが、ミニチュア炊飯具などの渡来系の影響を受けた遺物が出土しており、同系列の古墳群と考えられます。



出土したミニチュア炊飯具

真野廃寺

大津市真野一丁目



真野廃寺は大津市真野一丁目にある白鳳時代の寺院跡遺跡です。道路工事に伴い平成21年度～23年度にかけて発掘調査を行いました。



調査前の状況



瓦窯焚口のアーチ状瓦積み



5枚が溶着した瓦

調査の結果、古墳時代後期の古墳や白鳳時代の瓦窯などが見つかりました。瓦窯は良好な状態で残り、一部が天井まで残っていました。ほとんどの場合、窯跡は天井が消失、あるいは崩落してしまうことが多いのですが、珍しい事例です。

当時の瓦は、主に寺院の屋根に葺かれていました。山などの斜面に造られる窖窯というものですが、見つかった瓦窯は古墳の墳丘斜面を利用して造られていました。瓦窯の構築材には瓦が使われ、窯壁の裏込めには多量の瓦が積み上げられていました。天井が消失せずに残っていた部分では、瓦をアーチ状に積み上げる様子を確認できました。使われた瓦は歪んでいたりする不良品が多く、なかには5枚の瓦が溶着したものもあり、使用不能な瓦が構築材として使われたようです。種類としては平瓦が多く、軒瓦はありませんでした。窯内に残っていた瓦（実際にこの窯で焼いた瓦）にも

軒瓦がなかったため、寺院建立の際、必要となる瓦の補充のためにこの瓦窯が造られたのかもしれない。

人間の体は野生動物や昆虫と比べれば、もろく弱いですが、その代り優れた技術を備えています。そのおかげで何十万年も生き延びてきました。その長きにわたる技術・経験・知識に調査員自らが挑戦します。

—石器を作って魚を食べる—

石器は旧石器時代～弥生時代までの、何万年もの間作り使われてきた道具です。一見原始的な道具に見えますが、実はかなり高度な技術がないと作れません。石器に使われる代表的な石材として、黒曜石・サヌカイト・珪質頁岩があります。今回は西日本で人気があったサヌカイトからスクレイパー（削器、切る道具）を作ってみました。

1. 原石から剥片を探る

最初に原石を割って大きく薄く剥がし採ることが必要です。これを剥片といいます。はっきりいってこれが一番難しい。硬い石を当てて割り取ります。割れる方向や割れやすい部分を見定めなければなりません。やみくもに当てても全然割れずにケガするだけです。

2. 剥片のかたちを整える

採れた剥片から作りたい道具のかたちにしていきます。ここでは、適度な硬さ・重さ・しなり具合のシカの角を使います。石は薄く剥がれていくので、2手3手先読みしながら剥離していきます。形を整えるとともに、厚みを減らすことも意識しないと、なんとも不格好な石器になってしまいます。

3. 刃を作り出す

割れた剥片は、カミソリのように鋭い部分があります。この部分を使えば簡単に肉なども切れるのですが、すぐに切れなくなるので、刃を作り出す必要があります。ほとんどの石器に鋸のような刃があるのはそのためです。切れ味は悪くなりますが、長持ちします。

4. 魚はさばけるか

完成した石器で魚をさばってみました。見た目は無骨な刃物ですが、意外に切れます。使い勝手は良好です。三枚おろしも可能です。

5. 食べてみた

大きめの葉で包み焼きにして食べました。葉が適度に水分を吸収したので、程よくジューシーで美味しかったです。石器で切った魚や肉には石くずが残ることがあるので、さばいた後は水洗いした方がよいでしょう。

(調査員T)



魚を三枚におろせます

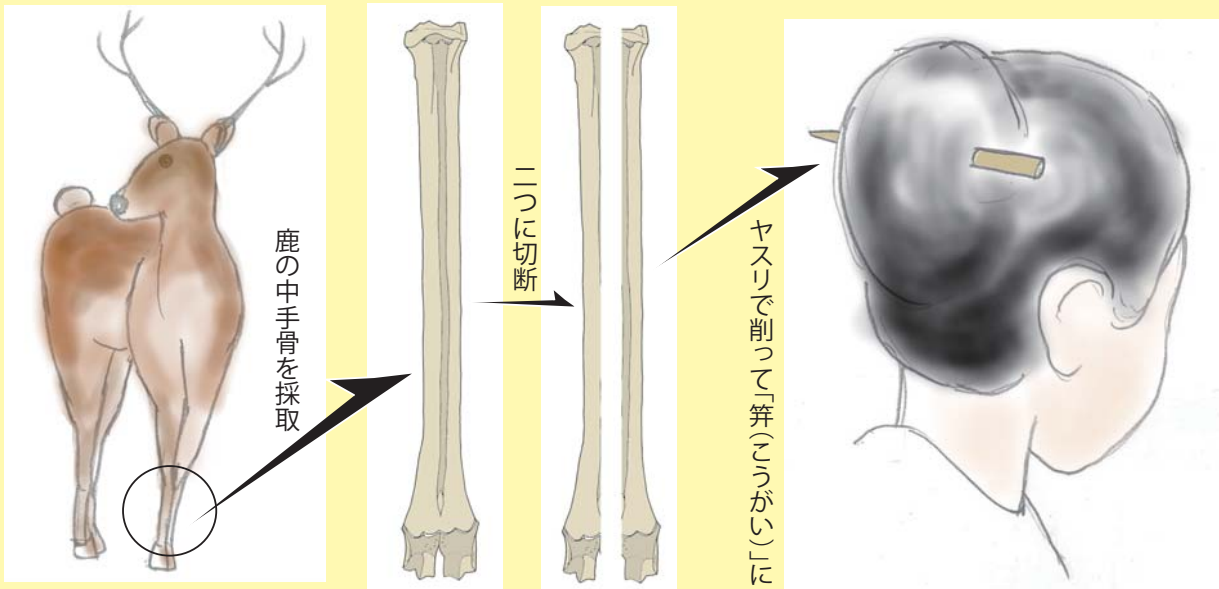


詳しくは展示室の動画をご覧ください!

—鹿の骨で笄（こうがい）を作る—

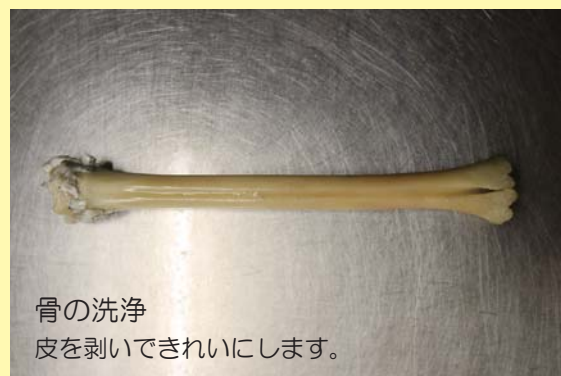
今ではもう使われることがない素材がいろいろあります。「骨・角・牙」も有用な素材でかつては様々な品物に加工されてきました。

塩津港遺跡（平安時代末）からも角や骨で作られものが数多く出土しました。今回はその一つ「笄（こうがい）」作りに挑戦します。「笄」とは髻（まげ）を留めたりする道具で、当時の身だしなみ道具の一つです。



素材はシカの骨です。真っすぐで長い骨が必要で、足先に近い「中手（足）骨」を選んで使っています。縦に割り一本の骨から2本作ることができます。

出来上がった「笄」はツルンとした良い感触です。当時、木製のものも作られました。しかしその後、金属製やベッコウ製が登場し、さらには笄そのものが使われなくなり、その姿を消していきます。



- 体験やっています -

滋賀県埋蔵文化財センターでは、むかしむかしの技術の体験を楽しめます※。

まが たま 勾玉作り体験

勾玉とは弥生時代や古墳時代の首飾りです。

蠟石という軟らかい石を削って磨いて勾玉を作ります。磨けば磨くほどきれいに仕上がります。



か し 鍛冶体験

熱した釘を叩いて小刀を作ります。ホントの鍛冶は職人技ですが、もう少しお気軽に鍛冶職人氣分になれるでしょう。



い もの 鋳物体験

鍛冶と同じく鋳物も職人技ですが、もう少し簡単に鋳物職人の気分になれるかも。

低めの温度で溶ける金属を使って、古代の鏡を作ります。これも磨けばピカピカの鏡になります。



そめ もの 染物体験

これも職人技ですが、もう少し気軽に草木染めを体験できます。ちょっとした工夫と遊び心でいろんな模様に仕上げられます。



夏休みが近づいたら滋賀県埋蔵文化財センターのお知らせをチェックしよう！楽しいイベントが待ってるかも！

※ 毎年夏休み前に広報などで募集、開催しています。定員には限りがあります。親子で参加していただくことが条件となります。



主催 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

共催 滋賀県教育委員会

長浜市教育委員会

彦根市教育委員会

竜王町教育委員会

草津市教育委員会

大津市教育委員会